

## 「 最近の細菌からの警鐘 」(協同組合通信/日和見論弾) 15.4.2

近頃、細菌・ウイルス・寄生虫を巡るニュースが多い。昭和四十五年に入った北大恵迪寮は、一見バンカラ風で見るもの・聞くもの全てが新鮮な驚きの連続。一年目の夏休みの退屈凌ぎ、ワングルの連中の話題は「エキノコックス」という道内のキタキツネの体内に存在する寄生虫。毎日を雄大な山岳や景色を満喫している彼らの恐れごと。新聞・紙屑で床が見えない日本一の汚さを誇る薄暗い部屋が何とも効果的。人には感染しないらしいの漠然とした話ですっかり忘れていたが、事実は違った。三月十四日毎日新聞「エキノコックス関東上陸」が目焼きついた。

三月三十日、日経新聞「全国七ヶ所からアライグマの回虫」。この回虫は人間に感染し、重い脳障害を起こし死亡率も高い。クマの小腸に寄生し糞と共に排泄された卵を人間が摂取する事で発症する。米国では幼児を中心に12例。うち三人が死亡。我国では人間への感染はないと、日本寄生虫学会で報告された。

香港で新型のなぞの肺炎(SARS)が蔓延。WHOも緊急警報を出し、市民全員に防護マスクを支給するTVニュース。

第一号患者は広州市大学院の医師で原因は不詳だが、空気で感染すると言われ、香港市民はパニック状態。

二月二十八日「七十年代生まれで九割がアレルギー体質」というショッキングな日経記事。今やピークのスギ花粉やダニでアレルギーを起こしやすい体質の人が溢れ、人類への警鐘が高鳴っている。日々摂取する水と食物の変化・影響の真剣な研究・対処が不可欠。

今年はスギ花粉の飛散量が多い。マスクのデザイン・機能で、風邪の物とは違いが一目で分る。電車内、激しい咳でばい菌をばら撒く、マスクもしない社会ルール欠落の傍若無人に接する事が増えた。流石に花粉症の痛勤者には、頑張れと胸中でエールを送る。

イラク戦争は世界各国にブッシュ大統領が突きつけた外交上の突然変異。これら細菌や寄生虫は、発症域の拡大と存在すらしなかった深刻な文明病。世紀末のノストラダムスの予言騒動は収まったが、新世紀は細菌・寄生虫が人間に大難題を速射砲で投げつけ息つく暇も与えない。

( 気象情報システム株式会社 高津 敏 )